

4年 ESD 社会科学学習指導案

橋本市立城山小学校 第4学年 大谷智士

(1) 単元名 わたしたちの県～地域の特徴を生かした伝統工業～

(2) 小単元の目標

- ・昔から続いている県の特徴ある伝統工業を通して、気候・地形・歴史・交通などの県の特徴を考える。(知・技)
- ・県の学習に関係する資料を集めたり、地形図から読み取ったりしたことを白地図に表現するなどの体験的な活動や作業を通して、県の特徴ある伝統工業について考える。(思・判)
- ・「へら竿」の特徴や、歴史、職人の工夫や努力を調べることにより、地域についての理解を深めるとともに、地域を愛する心情をもつ。(主体的に学習に取り組む態度)

経済産業大臣指定伝統的工芸品・和歌山県和歌山指定郷土伝統工芸品
紀州へら竿 (きしゅうへらざん)
平成25年経済産業大臣指定/指定された地域(橋本市、九度山町)



(3) 単元について

・教材観

本単元では、日本が誇る伝統的工芸品の一つとして平成25年に通商産業大臣より国の伝統的工芸品の指定を受けた「へら竿」について取り上げる。このへら竿づくりの特色や歴史を理解すること、また、竿づくり職人として技術を身に付け、受け継いできた職人の工夫や努力に気付くことをねらいとしている。4年生は、和歌山県の地形や産業、交通網の様子を学習しており、自分たちが住む和歌山県、さらには日本の地理や歴史に関心をもち始めている。「へら竿」は自分たちが住む橋本市の伝統的工芸品であり、児童にとってはより身近に感じ、興味関心がわく題材であると考えられる。

・児童観

本学級は、社会科の学習に意欲的に取り組む児童が多く、特に地図の読み取りが大好きである。4月から授業開始の5分を地図帳の時間とし、索引を使って調べること慣れ親しんできた「ひらけゆく和歌山」の学習の導入時、「和歌山県というって思いつくこと」を自由に記述させたところ、多い児童で 1つ程度であり、意外に分からなかった。一番多く挙げられたのは、食べ物のことであった。地元、橋本市の「へら竿」については、ほとんどの児童が知らなかった。和歌山県には、経済産業大臣指定伝統的工芸品が「紀州漆器」「紀州箆笥」「紀州へら竿」の3つがある。そこで、「へら竿」の長い歴史や、日本の伝統工芸品の1つだということに気付かせながら学習を進めていくことで、児童の知的好奇心を刺激し、地域への関心、愛着を高めていきたい。

・指導観

小単元を通して、実物やグラフ、絵資料、写真、地図、新聞記事を用いて学習を進める。へら竿について調べる際には、へら竿づくりやへら竿の写真を用いたり、作る際の道具を用いたりして、先人たちの知恵や工夫について気づくようにする。また、橋本地方での竿の生産の変化について調べる際には、写真やグラフ、表を活用しながら、自分の生活を振り返って具体的にとらえさせていく。このとき、一つ一つの資料を読み取るだけでなく、資料同士を関連させて考えさせたり、単元の終末には資料から分かったことを総合させて考えさせたりしていく。そして、橋本地方では、現在も伝統工業として生産が続けられていることを新聞記事から捉えさせ、特色ある地域の生活について考えさせたい。また、小単元の終末に、学習の再構成として「紀州箆笥」「紀州漆器」を取扱うことで、伝統工業は地理的、歴史的条件及び人々の工夫や努力によって継続、発展しているということの定着を図っていきたい。そして、資料を読み取る活動の際には、児童に資料を渡し、じっくりと資料を見つめさせる時間を確保する。そうして資料から読み取ったことや解釈したことを書かせたあとで、ペアトーク、グループトーク、全体の場で説明する時間をとるようにする。いろいろな考えを聞き、読み取りを深める中で、多角的な見方考え方ができるようにする。

・ESDの観点

ESDの視点に立った学習指導で重視する態度・能力	
批判的に考える力(批判)	30年後のなくなるかもしれない職業や物について考え、今後、必要となる能力について考える。
未来像を予測して計画を立てる力(未来)	30年後のへら竿づくりに関して考えることで、未来像を予測する。
多面的・総合的に考える力(多面)	一般の竿と橋本市のへら竿を比較したり、他地域の伝統工芸品とへら竿と比較することで、総合的に伝統工芸品について考える。
コミュニケーションを行う力(伝達)	他地域の工芸品について調べ、ペアやグループで伝える。

(4) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①県内の伝統工業とそれに携わる人々が、伝統を生かした工業を継続・発展して、特色あるまちづくりに取り組んでいることを理解している。	①県内の伝統工業とそれに携わる人々の生活について学習問題や予想、学習計画を考え、表現している。 ②伝統を生かした工業の様子と人々の生活の様子や働きについて調べ、県の特徴を考え、表現している。	①県内の伝統工業とそれに携わる人々の生活に関心をもち、意欲的に調べようとしている。 ②県や県内の地域の伝統工業やそのよさを考えようとしている。

(5) 単元展開の概要 (全12時間)

主な学習活動	学習への支援	◇評価・備考
<p>1. 橋本市のへら竿について考える①。</p> <p>・資料から読み取ったことを、言葉で表現する。</p>	<p>・地元でのへら竿を使ったイベントを扱った新聞・へら竿を扱ったちらしやHPなどの資料を見せる。</p>	<p>◇地図や写真を多く見て、「イメージ」をもつ。【主】</p>
<p>2. へら竿の特徴や歴史について理解を深める。②③④</p> <p>・一般の竿と橋本市のへら竿を比べる。 ・橋本市のへら竿を良さについて考える。 ・橋本市でへら竿作りの盛んな理由を調べる。 ・地形、材料、交通、歴史などの視点で調べる。</p>	<p>・実物を見せ、一般的な竿と比較することで、違いに気付かせる。</p> <p>視点ごとにグループでまとめを発表し、へら竿について理解を深める。</p>	<p>へら竿の特徴や、職人の工夫や努力が分かる。【思】(多面)</p>
<p>4. 地元の職人を招いて、竿づくりについて理解を深める。⑤⑥</p> <p>・竿づくりの行程、工夫や課題と願いについて話を聞く。</p>	<p>へら竿の特徴や歴史、職人の工夫や努力について理解し、まとめる。</p>	<p>◇自分の課題以外の内容を分かち合うことで、理解を深めさる。【知】(伝達)(多面)</p>
<p>5. 伝統工芸品についての理解を深める。⑦⑧</p> <p>・「紀州漆器」「紀州箆筒」 ・和歌山県外の伝統工芸品</p>	<p>他にどんな伝統工芸品があるかインターネットで調べる。</p>	<p>◇橋本市の将来像を考え、伝統工芸品について、自分の考えを伝える。【思】(批判)(未来)</p>
<p>6. 50年後のへら竿づくりについて考える。⑨⑩</p> <p>・30年後の社会の様子し、残っている物や職業、新しく増えている物や職業について予想する。 ・50年後、へら竿づくりがのこっているか予想し、竿づくりが続くための取組や工夫について考える。</p>	<p>30年後の社会の様子(シンギュラリティラリティ)などを予測させる。</p> <p>観光などの視点から、へら竿を扱ったイベントを考えたり、へら竿づくりの技術や物を他に活用できないか考えさせたりさせる。</p>	<p>◇橋本市の将来像を考え、伝統工芸品について、自分の考えを伝える。【思】(批判)(未来)</p>
<p>7. 自分たちの考えを発信する。⑪⑫</p>	<p>相手に応じて、話し方や使う資料を工夫させる。</p>	

